



こあら通信

小栗小児科医院 2018年 3月 139号
〒933-0014 富山県高岡市野村869
TEL: 0766-23-2229
URL: <http://oguri-shounika.com>

ポリオ



急性灰白髄炎（ポリオ）は、ポリオウイルスの中枢神経組織への感染によって引き起こされる急性ウイルス感染症で、一般的には小児麻痺としてよく知られています。

ポリオウイルスに感染すると手や足に麻痺があらわれることがあります。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれずに、知らない間に免疫ができます。

しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。

現在、残念ながら特効薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。

日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

今でも、海外から、ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。

海外では、依然としてポリオが流行している地域があります。

ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気が付かないまま帰国（あるいは入国）してしまう可能性があります。症状がなくても、感染した人の便にはポリオウイルスが排泄され、感染のもととなる可能性があります。

ポリオに対する免疫をもつ人の割合が減ると、流行する危険があります。

仮に、ポリオウイルスが日本国内に持ち込まれても、現在では、ほとんどの人が免疫を持っているので、大きな流行になることはないと考えられます。しかし、予防接種を受けない人が増え、免疫を持たない人が増えると、持ち込まれたポリオウイルスは免疫を持たない人から持たない人へと感染し、ポリオの流行が起こる可能性が高まります。

不活化ポリオワクチンや百日咳ワクチンは接種から時間が経つと抗体価が低下することが知られています。抗体価が低下すると、ポリオや百日咳の感染を予防する力が失われ、再び感染のリスクにさらされます。より長い間感染を予防するためには、4～6歳程度で、追加接種（5回目）した方が望ましいです。公費ではできないので、有料となります。詳しくは、受付までお問い合わせください。

**3月の臨時休診
はありません**

